

特別講演

【5月17日】

ノーマライゼーションとユニットケア

～「けま喜楽苑」の実践、厚労省と外山先生※と共に～

(講師) 社会福祉法人きらくえん

名誉理事長 市川禮子氏

(開催日時) 5月17日(月) 14時～16時半 Zoom使用



名誉理事長 市川 禮子

1983年に、きらくえんに入職。

兵庫県尼崎市、芦屋市、朝来市において特別養護老人ホームを中心にケアハウスやグループホーム、デイサービスやヘルパーステーション等の在宅サービスを多岐にわたり運営してきた。2003年には、「朝日社会福祉賞」を受賞するなど、徹底して“利用者本位”の実践を続けている。

(対象者)

・施設関係者及び自治体関係者等

(受講料)

・推進協の会員及び自治体関係者は無料。
・非会員は1接続につき、10,000円。

(募集人数) 100名

(特別養護老人ホーム「けま喜楽苑とは」)

・2001年、ユニットケア制度化前にその考え方を基に外山先生監修の下、尼崎市食満(けま)に整備
・厚労省がユニットケア制度化時にモデルとした施設
・現在までの約19年間で見学者延べ2万人
(昨年感染拡大防止のため、中止しています)
・当初よりユニットリーダー実地研修施設*としてユニットリーダーの育成の舞台となる(現在は休止中) *推進協以外
・2012年整備の「KOBÉ須磨きらくえん」は「けま喜楽苑」の発展型

※外山義(とやまただし)…研究者、建築家。特養において四つのゾーニングを提唱し、現在の個室ユニット型施設を形作ったユニット型施設研究の先駆者。京都大学教授時代の2002年、52歳で急逝。

(推薦文)

人間の本质に根差した個室ユニットケア 厚労省 初代老健局長 堤 修三
特養ホーム等の個室化は、2003年、外山義先生の実証的研究と市川さんらの先駆的実践によって突破口が開かれた。私は、山崎史郎君(現リトアニア大使)の進言を容れてその導入に踏み切り、同年8月の個室ユニットケア推進大会で「人は個であって孤ではない。個室ユニットケアは正しい人間観に基づく」と述べた。この間の経験に基づく市川さんのお話は、要介護者の尊厳を守ろうとするすべての人々にとって必聴である。

【申込方法】 当会ホームページからお申込みください。

※検索は「推進協」または www.suishinkyō.net